

研究班番号【 38 】  
詩の構造から読み解く中原中也の季節観

国語班：北野 亜紗実、井上 美空

## Abstract

The purpose of this study is to clarify Chūya Nakahara's view of the season by interpreting his poems. The research shows that the words used in his poem are varied from each season. Based on it this study concludes that it is possible to infer the impression of each season on him.

## 要約

本研究の目的は、中原中也の作品を読み解き、彼の季節観を明らかにすることである。調査により、季節によって詩に使用されている単語などの構造が異なることがわかった。従って本研究では、それらに基づき中原の各季節に対する印象を推測することができるかと結論づけた。

## 1.はじめに

我々は「中原中也の詩には必ず季節がある」という吉武(1991)の分析に基づき、中原の独自の表現によって各季節を把握することができ、そこから中原の季節観がわかるのではないかと考え調査を行った。なお、本研究では「季節観」を各季節に対する観念と定義づける。

## 2.研究手法

中原中也の詩集である『山羊の歌』『在りし日の歌』から、題名に春・夏・秋・冬の文字が含まれる詩を抜粋する。本研究では題名に季節の名前が含まれている詩をそれぞれ「春の詩」「夏の詩」「秋の詩」「冬の詩」とし、春の詩9篇、夏の詩8篇、秋の詩8篇、冬の詩5篇を研究対象とした。次にこれらの各季節の詩ごとに共通する構造を見つけ、表にまとめる。そして中原がそのように表現した理由を考察し、中原の季節観を推測する。なお本研究でいう構造とは単語の組み合わせ、口調、一人称、音数律、単語の5つとする。

《調査1》

- ①各季節の詩を読み、共通点を見つける。
- ②挙げられた構造の共通点を表にまとめる。
- ③なぜ中原が②で挙げた構造を使用したのか考察する。

## 3.結果

《調査1》

各季節の詩の共通点をまとめると下の表のようになった。

季節	春	夏
構造		
組み合わせ	空(天)と地(4)	なし
口調	丁寧語・感嘆符がない	
一人称	私(2)われ(1)わたし(1)我等(1)	私(3)
音数律	七五調	
単語	風(3)、吹く(2)、大きい(2)、鈴(2)、銀(2)、土(3)、空(5)、流れる(2)	夜(4)、昆虫(3)、植物(4)、蒸気(2)、日(2)、砂(2)
季節	秋	冬
構造		
組み合わせ	石と陽(3)	静と動(4)
口調		
一人称	私(6)僕(2)我(1)	僕(2)私(1)われ(1)
音数律	七七調 七五調	
単語	石(5)、陽(5)、蝶(2)、空(5)、椅子(2)、煙(3)	空(3)、酒(2)、夜(3)、霜(2)、夕日・夕明下(2)、蜜柑(2)、動物(4)、寒い(3)、雪・水・雨・雨水(3)

(詩の各季節における共通する構造一覧)

#### 4.考察

春の詩には、他の季節にはない「空(天)と地」の組み合わせが見られたことから、これらは春の詩独自のものであると考えられる。また「風」「土」という言葉が頻出し、それぞれ雪が溶けることを表す「東風解凍(はるかぜこおりをとく)」「春の土」という春の季語が連想されることから、中原は春を雪が溶ける季節として認識していると考察できる。

夏の詩には、「怨恨」「終焉」「血」などといった物騒に感じとれる単語が多く、直接的な表現で不快感を表していることが分かった。このことから中原は他の季節よりも夏を不快に感じていると思われる。

秋の詩では、街の情景や人々の生活の描写が多く、他の季節に比べ他人の行動に焦点を当てていることから客観的な詩が多いと言える。また、夏や冬の詩に比べ、比較的音数律に一定の規則が見られた。これらのことから、中原は秋の景色を理性的に眺めていると考えられる。

冬の詩には、「静と動」の組み合わせが多く、その中でも、「静」を表す言葉が主文に含まれていることがほとんどであった。そして、「空(くう)」という文字が多く、孤独を感じられる表現が多かった。また、「夜」と「酒」の組み合わせも多く、孤独と寒さを酒で紛らわそうとしていると考えられる。これらのことから、中原は冬は孤独というイメージを持っているのではないかとと思われる。

#### 5.結論

中原の詩には季節ごとに特徴が見られたことから、仮説のとおり、詩から中原の季節観を読み解くことができたと言える。

しかし、表にまとめた各季節の特徴の中には、対象の詩を増やすと他の季節の詩にも複数回使用されている単語があった。そのため、対象作品を変更すれば研究結果が大きく変わることがわかり、中原の季節観についての細かい考察にはまだまだ研究の余地があると考えられる。

#### 6.参考文献ならびに参考Webページ

渡辺章夫(2000)「中原中也論：山羊の歌を中心に」昭和文学研究,41,52-62

吉武博(1991)「中原中也『山羊の歌』『在りし日の歌』に関する計量的考察」高知大学学術研究報告,40,57-64

中原中也(1967)『中原中也全集第1巻』角川書店

広辞苑第七版(2018)岩波書店

中原中也記念館(<https://chuyakan.jp/about-chuya/>)2024-12-21